

教育リーグ規定（一部改訂）2024.04

1. 試合回数、試合時間、コールドゲーム等

- * 試合回数は、6回戦とする。日没/降雨時の試合成立は5回終了時とし、試合が成立しない場合は、再試合とする。
- * 試合時間を1時間30分過ぎたら、以降新しいイニングに入らない。以下、ケースでの対応とする。

時間制限の解釈について

- (1) 試合時間は、本部または当該担当審判員が管理し、試合開始時刻を両チームに通告する。
- (2) 試合時間に達した時は、審判員がそのことを両チームに通告する。

【ケース1】

チーム	1	2	3	4	5	6	計
A	0	0	2	0	3	1	6
B	0	0	0	0	2		2

・Aがリードの6回表に1時間30分が経過した場合
⇒6回を7回と置き換えて、6回裏の攻撃まで行う。

【ケース1】

チーム	1	2	3	4	5	6	計
A	0	0	2	0	0	1	3
B	0	0	2	0	2		4

・Bがリードの6回裏のB攻撃中1時間30分が経過した場合
⇒1時間30分を超えた時点で試合終了となる。審判員はその時の打者の打撃中にその旨を両チームに通告し、この打者が打撃を完了して試合終了とする。

- * 全試合で点差によるコールドゲームを適用する。（4回10点差以上/5回以降7点差以上）ただし、試合時間の1時間30分まで試合を継続とする。
- * 規定時間/規定回数終了時に同点の場合は、特別延長戦を行わず引き分けとする。

2. 投球制限

投手の投球数は少年の場合1日あたり70球までとする。これを超える場合は投手を交代しなければならない。

（必携【競技に関する連盟特別規則八】・【東京都軟式野球連盟取り決め事項に準ずる】）

一度降板した投手は、再び投手となることはできない。

3. ベンチ、先攻/後攻

- * 試合予定の連絡にて先のチーム（AvsBであれば、A）が一塁側とし、攻守は審判員立ち会いのもと主将のジャンケンで決める。

4. メンバー表、試合球

- * メンバー表は本部にて用意した所定の用紙に作成し、試合開始前までに本部審判員に提出すること。
- * 試合球は、教育リーグ会で用意する。

5. 審判員

- * 担当審判は、審判服の着用とする。
- * 担当審判員は、各チームから2名とし、担当審判員4名で運用とする。（球審、1塁審、3塁審、本部）
- * 教育リーグのグラウンド準備は、第一試合の担当審判で行う。試合開始1時間前に集合とする。

なお、終了後の後片付けは、第二試合の担当審判にて行う。

- * 第一試合のみの場合は、担当審判が準備・後片付けの両方を行う。
- * 担当審判チームから試合結果(スコアボード)を当日中に野口まで送付すること。

6. リーグ勝敗について

- * 勝敗数が同率の場合、タイブレーク方式から以下へ変更とする。

- 1) 同率チームが2チームの場合、同率チームのリーグ戦勝者を上位とする。なお、対戦成績が引き分けの場合、総失点率で順位を決定とする。
- 2) 同率チームが3チーム以上の場合、下記の総失点率の計算式から値の大きいチームを上位とする。

総失点率の計算式：「総得点/攻撃イニングの総数で割った数」から、「総失点/守備イニングの総数で割った数」を引き、値のを算出

7. その他

- * 感染症対策を各チームで行ってください。
- * マナーアップにご協力ください。また、ゴミは責任をもって持ち帰ってください。
- * 場外ファウル等の処理は、大人の方をお願いします。
- * 球場への往復は、事故の無きよう、充分にご注意ください。
- * グラウンド状態が悪く、整備に人数が必要な場合は、当該チームもグラウンド整備にご協力してください。